米・麦・大豆を経営する集落営農組合（任意組合）が法人化したときの経営試算

〇牧 善弘・八田 聡
（佐賀農業セ）

【目的】
佐賀県では、集落営農組合（任意組合）の法人化を推進しているが、農家や指導者（JAや行政）は、農事組合法人（以下、「法人」という）になった後、任意組合と比べて収益性に不安がある。
そこで、米・麦・大豆を経営する集落営農組合（任意組合）が法人化した場合の経営を試算し、その収支の差を明らかにした。

【材料および方法】
S町（平坦地域）で米・麦・大豆を経営するA組合（任意組合）の下記データより、そのままの時と法人化した場合の経営を試算し、比較検討した。
①H23～25年の営農計画書（3カ年の作付面積を40ha規模で按分したあと平均化）
②機械・施設の購入価格、購入時期等
③作付面積から算出できないその他の収支等
また、経営試算に用いた前提条件を表1に示した。

【結果および考察】
法人の1期目と2期目の構成員配分総額は、任意組合に比べ少なかった（表2）。これは、農業経営基盤強化準備金（以下、「積立金」という）を積み立てたためで、特に2期目では、法人へ施設（格納庫）を譲渡時に発生した補助金の譲渡益を相殺するための積立金の影響が大きいと考えられる。
一方、3期目以降は法人のほうが多くなった（表2）。これは、3期目と5期目に機械を更新する時、法人では積立金を利用して、減価償却費を任意組合よりも少なくできたためで（表2）、従事分量配当に使う剰余金を増やし、消費税還付を多くすることができたためと考えられる。
構成員配分総額に減価償却額と積立金を加えた合計額では、1期目から任意組合より法人のほうがメリットがあることが分かった（表2）。
以上のことから、A組合において現在の経営作物の作付面積を維持して法人化した場合、任意組合よりも収益性を高く維持して運営できる。

表1 集落営農組合を経営試算するための前提条件

<table>
<thead>
<tr>
<th>試算対象組織</th>
<th>S町・A組合</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>経営試算期間</td>
<td>H26年1月から5年間</td>
</tr>
<tr>
<td>集落の規模</td>
<td>40ha</td>
</tr>
<tr>
<td>構成員数</td>
<td>20戸</td>
</tr>
<tr>
<td>機械譲渡額</td>
<td>2) 5,607千円</td>
</tr>
<tr>
<td>3期=7,394千円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5期=5,475千円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3,309千円 (4,958千円)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>小作料 18,000円/10a</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(10,000円/10a、8,000円/10a)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>出資金1) (構成員1人当たりの額)</td>
<td>200千円</td>
</tr>
<tr>
<td>(10千円/人)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>法人税等 (税込み)</td>
<td>162千円</td>
</tr>
<tr>
<td>機械の更新時期</td>
<td>及び金額 3)</td>
</tr>
<tr>
<td>3)施設等譲渡額 2) (法人の譲渡益)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>小作料</td>
<td>18,000円/10a</td>
</tr>
<tr>
<td>(10,000円/10a、8,000円/10a)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>経営基盤強化準備金積立額 1)</td>
<td>34,925千円</td>
</tr>
<tr>
<td>(積立の経営期)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1期、3期、4期、5期</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1,000千円/期</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>出資金1) (構成員1人当たりの額)</td>
<td>200千円</td>
</tr>
<tr>
<td>(10千円/人)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2)機械、施設等の譲渡額は、本課題で調査した集落営農組織の調査データを基に算出する。また、施設を譲渡するときの法人の譲渡益分は、農業経営基盤強化準備金として積立を行う。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3)機械の更新時期は、譲渡機械の残存価格が1円になった次期に更新し、購入額は前の機械の購入額と同等として算出する。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表2 農事組合法人と任意組合の経営試算の比較 (単位:千円)

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>法人</th>
<th>任意組合</th>
<th>法人</th>
<th>任意組合</th>
<th>法人</th>
<th>任意組合</th>
<th>法人</th>
<th>任意組合</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>収入</td>
<td>42,923</td>
<td>61,181</td>
<td>58,009</td>
<td>61,181</td>
<td>61,531</td>
<td>61,181</td>
<td>62,267</td>
<td>61,181</td>
</tr>
<tr>
<td>消費税還付</td>
<td>1,034</td>
<td>818</td>
<td>1,086</td>
<td>1,118</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>支出</td>
<td>13,090</td>
<td>25,314</td>
<td>26,451</td>
<td>27,153</td>
<td>27,062</td>
<td>27,153</td>
<td>26,667</td>
<td>27,906</td>
</tr>
<tr>
<td>減価償却費(A)</td>
<td>1,625</td>
<td>768</td>
<td>1,741</td>
<td>1,118</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>上記差</td>
<td>857</td>
<td>1,042</td>
<td>255</td>
<td>388</td>
<td>1,176</td>
<td>1,176</td>
<td>1,357</td>
<td>2,357</td>
</tr>
<tr>
<td>法人税等</td>
<td>112</td>
<td>92</td>
<td>92</td>
<td>92</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>資産</td>
<td>6,686</td>
<td>7,102</td>
<td>13,212</td>
<td>6,403</td>
<td>13,297</td>
<td>11,190</td>
<td>11,945</td>
<td>8,583</td>
</tr>
<tr>
<td>累計利益強化準備金</td>
<td>1,000</td>
<td>4,958</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
</tr>
<tr>
<td>構成員配分総額(C)</td>
<td>34,925</td>
<td>35,868</td>
<td>30,590</td>
<td>35,936</td>
<td>34,205</td>
<td>34,028</td>
<td>34,205</td>
<td>34,028</td>
</tr>
<tr>
<td>法人の配分</td>
<td>28,383</td>
<td>26,600</td>
<td>33,469</td>
<td>34,028</td>
<td>34,205</td>
<td>34,028</td>
<td>34,205</td>
<td>34,028</td>
</tr>
<tr>
<td>任意組合の配分</td>
<td>6,192</td>
<td>35,868</td>
<td>3,990</td>
<td>35,936</td>
<td>736</td>
<td>34,028</td>
<td>0</td>
<td>34,028</td>
</tr>
<tr>
<td>構成員配分総額の差1)</td>
<td>▲ 942</td>
<td>▲ 5,346</td>
<td>176</td>
<td>176</td>
<td>1,357</td>
<td>2,357</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(C)+(B)の差1)</td>
<td>58</td>
<td>▲ 388</td>
<td>1,176</td>
<td>1,176</td>
<td>1,357</td>
<td>2,357</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(C)+(B)+(A)の差1)</td>
<td>915</td>
<td>654</td>
<td>921</td>
<td>921</td>
<td>2,357</td>
<td>2,357</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

1)差は、「法人」-「任意組合」。